

参加者募集

グローバルマインドを持った職業人をを目指す若者へ

H21年度文科省 大学教育充実のための戦略的国際連携支援プログラム

地域の大学連携による学生の

国際キャリア開発プログラム

2011年9月合宿セミナー開講!!

国際協力、国際ビジネス、観光まちづくり、国際理解

国際キャリア開発基礎

日時：2011年9月2日(金)～5日(日) 3泊4日
参加費：10,500円(宿泊、食費込み)
定員：100名～120名(先着順)



主催：宇都宮大学、作新学院大学、白鷗大学、大学コンソーシアムとちぎ 協力大学：国際医療福祉大学 共催：(独)国際協力機構 JICA地球ひろば
後援：栃木県、(財)栃木県国際交流協会、(株)国際開発ジャーナル社、栃木県JICA専門家連絡会、栃木県青年海外協力隊OB会、いっくら国際文化交流会

学生ファシリテーター大募集！一緒に合宿セミナーを企画しませんか？

ホームページでは随時「最新情報」をアップ↑しています。関心がある人は今すぐクリック！

国際キャリア開発プログラム

検索

<http://www.kokusai.utsunomiya-u.ac.jp/career-program/>

申し込み方法

申込方法：1.申込フォームから (<http://www.kokusai.utsunomiya-u.ac.jp/career-program/>)
2.申込用紙の送付 (申込用紙請求先メールアドレス：kokuca@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp)
申込開始：2011年6月13日(日)
申込締切：(基礎) 2011年8月1日(日) (英語I・II) 2011年8月19日(金)
参加費振込先：申込受付後、事務局からメールにて連絡致します。(期限までに振込がない場合はキャンセル扱いと致します。)

問い合わせ先

宇都宮大学 国際学部
国際キャリア開発基礎担当
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350
TEL.028 (649) 5172
FAX.028 (649) 5171
E-mail kokuca@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

白鷗大学 教育学部2号館319
国際実務英語I・II担当
〒323-8585 栃木県小山市大行寺1117
TEL.028 (670) 3702
TEL.0285 (22) 9874
FAX.0285 (22) 8989
E-mail wfukuda@fc.hakuoh.ac.jp

作新学院大学 経営学部研究棟302
国際キャリア実習I・II担当
〒321-3295 栃木県宇都宮市竹下町908
TEL.028 (670) 3702
TEL.028 (670) 3702
FAX.028 (670) 3702
E-mail kokusai@sakushin-u.ac.jp

国際キャリア開発プログラムの最新情報や講師からのメッセージ、講演会や公開講義のお知らせをお届けします！(携帯、PC用)
*携帯メルマガ登録はQRコードから！



最新情報は、HPとメルマガで!!

外国人にとって魅力的な日本の観光資源をさぐる

大野 邦雄 作新学院大学 特任教授

分科会内容：

第1ステップでは、ビジット・ジャパン・キャンペーンにより観光立国を標榜するようになった背景と、日本と海外の観光資源を対比をしながら、外国人観光客の誘致目標を達成していない理由を探る。第2ステップでは、外国人は日本に何を期待しているのか、アンケート結果や事例を参考に、外国人にとっての日本の魅力について新たな仮説を構築する。第3ステップでは、この仮説に基づき、従来とは違った観光企画を立案する。

プロフィール：

宇都宮市生まれ。国立電気通信大学機械工学科卒業後、松下電器産業(株)(現パナソニック(株))を経て、2003年4月より宇都宮大学産学官連携コーディネータ。松下電器時代、松下幸之助の薫陶を受けて培った経験を生かしながら、栃木県の企業や自治体・市民と共に観光・まちづくりに取り組んでいる。

社会に貢献する企業をおこす

木原 麻里 株式会社 H-D Project 代表取締役

分科会内容：

近年、NGO/NPOや国際機関だけでなく、ビジネスを通じた国際協力が注目されている。援助機関による協力の限界は何で、企業やビジネスによる社会貢献の強みや意義とは何なのだろうか。また、近い将来、もしあなた自身が進路として起業の道を選択するとしたら、どのようなアプローチが出来るだろうか。より継続的で効果的な国際協力を実現すると同時に、自分の仕事と人生の意義、楽しさを見出せるビジネス・モデルを提案し、将来のビジョンを描いてみよう。

プロフィール：

聖心女子専門学校英語科を経て、米国・Fordham University、University of Hawaii at Manoaにて、実践的なビジネススキル、マネジメントスキルを習得。大手中学受験学習塾にて教室スタッフを担当の後、国際協力団体にて支援者業務担当を行う傍ら健康食品販売会社を設立。栄養面からCSR活動を行っている。

災害・紛争における自立支援を考える

木山 啓子 特定非営利活動法人ジェン 理事・事務局長

分科会内容：

災害や紛争が起きた際、人々は緊急支援を必要とする厳しい状態に置かれるが、被災者は気の毒な弱者ではなく、自立する力を持っている。そうした力が発揮され、自らの力で復興をけん引してゆくことが、最も必要とされている支援である。その意味で支援の初期段階から自立を支えることが重要であり復興の早道である。本分科会では、東日本大震災を例に、緊急支援や自立支援について、考えていきたい。

プロフィール：

米国・ニューヨーク州立大学社会学大学院修士課程修了。東日本(大震災)、旧ユーゴスラビア、アフガニスタン、イラク、パキスタン、スリランカ、新潟などで支援活動を行う。『日経WOMAN』誌ウーマン・オブ・ザ・イヤー2006大賞受賞、2005年エイボン女性功績賞受賞。著書に『誰かのためなら人はがんばれる』

住宅デザインから生活文化を考える

ウスビ サコ 京都精華大学 人文学部 総合人文学科 准教授

分科会内容：

近代化によって、建築のあり方と人々のライフスタイルが変わった。空間と人間の関係を3次元的また2次元的に形作るものが建築である。建築空間には、その「地域」の文化、気候風土、生活を営む人々の個性がよく表れる。本分科会では、様々な地域の住宅(すまい)の事例を通して空間と人々との密接な関係を理解し、住み手とどのように結ばれているかについて話し合う。

プロフィール：

マリ出身。中国・北京語言大学、南京東南大学等を経て、京都大学大学院工学研究科建築学専攻博士課程修了。研究対象は居住空間・住宅計画・住まい・住み方。住宅デザインと生活様式の関連を様々な国で調査している。著書に『知のテララー・文化』など。

学生感想

昨年9月に開催された国際キャリア開発基礎

キャリアに対する自分の意識が大きく変わりました。いかに自分と向き合い将来を考えられるかがとても重要であり、なるべくはやく行動に移し、自分の可能性を最大限に信じ、とどろんと挑戦していきたいと感じました。

世界を舞台にビジネスチャンスを広げよう

佐々木 敏行 株式会社FAR EAST 代表取締役

分科会内容：

参加者全員で途上国を対象とした開発輸入ビジネスのプランを練り上げ、それに基づき参加者で構成する仮想の会社組織を立ち上げる。インターネットを使用した商材発掘、商品開発、マーケティング、営業戦略、収支分析など具体的かつ実践的な仮想ビジネスを展開する。国際貢献、持続可能、対象国の産業基盤および雇用創出など各々が持ち寄るテーマやビジネスモデルについて主体的な発言と参加を促し、講師の実例を交えたアドバイスを織り交ぜながら進行する。

プロフィール：

途上国を中心に世界各地で食品、雑貨の開発輸入を行う。Natural,Organic,Fair,Cultural,Sustainable,Valuable,Satisfactoryなどをコンセプトに各地の文化やストーリーを織り込んだスタイリッシュな商品化を実現。途上国や各関係機関へのコンサルテーションや講演なども行う。

小形風車とソーラークッカーで世界を救え！

中條 祐一 足利工業大学 総合研究センター センター長 教授

西沢 良史 足利工業大学 総合研究センター

工学部創生工学科自然エネルギー・環境学系 助教

分科会内容：

小形風車やソーラークッカー(太陽熱調理器)は、日本においては教材としての利用の比重が高く、25億人の「エネルギー難民」(エネルギー源が使いたくても手に入らない人たち)を救う途上国に適した実用的技術であるという認識が低い。本分科会では小形風車、各種ソーラークッカーが途上国においてどのような役割を担えるか事例も含めて解説する。また実際に組み立てて実験や調理を行い、体験型学習を行う。

中條 祐一プロフィール：

上智大学博士後期課程修了。専門は材料力学であるが、心理学との境界領域であるサイコロジエなども研究。太陽熱で料理する「ソーラークッカー博士」として知られる。

西沢 良史プロフィール：

足利工業大学大学院工学研究科修士課程修了。足利工業大学総合研究センター、工学部創生工学科自然エネルギー・環境学系 助教。専門はエネルギー変換工学、主に小形風力発電機の研究に従事。博士(工学)。

国際ボランティアとしてコミュニティで働く

福田 わかな 白鷗大学 特任講師

分科会内容：

コミュニティ開発の現場では、「住民に教える」から「住民とともに学ぶ」アプローチへ変化している。本分科会では、ボランティア・青年海外協力隊の活動を紹介すると共に、コミュニティ開発の現場で、「住民とともに学ぶ」プロセスをどのように踏んでいけるのか、どのような問題に直面し、それを解決していくために、どのようなスキル、資質が求められるのか参加者と一緒を考えていく。またケーススタディを使い、参加型コミュニティ開発をグループワークで体験する。

プロフィール：

大学卒業後、一般企業に就職。その後、国連大学勤務を経て、英国サセックス大学で修士号を取得(開発人類学)。UNICEFインド事務所でのインターンシップを経験し、(財)国際開発高等教育機構勤務を経て、2007年より青年海外協力隊 村落開発普及員としてポリビアで活動。

夢のある映画をつくろう

益子 昌一 脚本家、映画監督

分科会内容：

デジタル技術等の発展に伴って、私達のコミュニケーション環境は劇的な変化を続けている。国際的な情報アクセスも容易になり、そのスピードも増している。しかしながら、メディアやコミュニケーション・ツールがどれだけ変わろうとも、メッセージを伝えること、表現することの難しさは変わらない。それは、個人的な感情であっても、フィクションな物語であってもである。分科会では、【表現する】ということ、映画の企画創りにフォーカスをあて、話し合う。

プロフィール：

ニューヨーク大大学院修士課程修了。映画監督、脚本家の他、小説も執筆。2009年公開の監督・脚本作品『さまよう刃』(東野圭吾原作、寺尾聰主演)はモントリオール世界映画祭に出品。主な作品に、脚本『きょうのできごと』(行定勲監督)、小説『ワンピースを重ねる君の…』など。那須烏山市出身・在住。

学生感想

昨年9月に開催された国際実務英語I

I met many new people and got to learn a lot from other opinions, which was very stimulating for me... We talked about many issues in English and I found this seminar useful for me!...I would like to participate in the next seminar again.

国際キャリア開発基礎

「専門知識を得ながら、キャリアパスにについて学ぶ」
(アクションプランづくり)

全体講義

クリティカル・シンキングとは簡単にいうと、ものごとをきちんと考えようということだ。きちんと考えることは大切だが、考え方を知らなかったり、経験がなかったりすると、なかなかうまく考えることができない。本セミナーでは、きちんと考えるための有力な武器である「質問力」を中心として、考えるための方法論や考え方について紹介する。

スケジュール

- 1日目：開講式、全体講義
クリティカル・シンキング～「開かれた心」で「問い」を持つ～学生トークライブ
- 2日目：全体講義「防災マネージメント」、各講師の講義、分科会、交流会
- 3日目：分科会、中間発表
- 4日目：全体発表、総括と意見交換、閉講式

国際実務英語Ⅰ

Azby Brown アズビー・ブラウン

金沢工業大学 未来デザイン研究所 所長

Using art to resolve conflict - from individuals to state level

アートを使った紛争解決 ～個人間から国家レベルまで

分科会内容：
アートが紛争解決の有効な要素であることは見過ごされがちである。本分科会では、クリエイティブな方法で手を使った簡単な演習やロールプレイを行い、アイデンティティやコミュニケーション、対立を招く要因を探る。この直感的なプロセスによりチームワークが高まり、参加者は解決のプロセスをすばやく生産的に経験する。

Art is often overlooked as a useful component of conflict resolution. This workshop will introduce creative ways of using simple hand-based exercises and role playing for investigating identity, communication, and factors leading to conflict. This intuitive process increases teamwork, and allows participants to quickly and productively experiment with the resolution process.

プロフィール：

米国・イエール大学にて彫刻と建築を学ぶ。その後、東京大学大学院工学部建築学科修士課程修了。日本建築やデザインに関する最近の著書に、「Just Enough」、「江戸に学ぶエコ生活術」がある。

Atsuko Takamiya 高宮 暖子

Band Pro Film and Digital社 日本市場担当

Cross-cultural communication in tourism and global business

ツーリズムとグローバルビジネスにおける 異文化コミュニケーション

分科会内容：
世界を舞台に働くイコール世界を旅すること。本分科会では、国際ビジネスの場における異文化コミュニケーションとそれに伴うツーリズムに焦点を当てる。「国際的に活躍したい」を実現するために、国際的な仕事をプロフェッショナルに結びつける方法を身に付けよう。

Working globally means traveling globally. The working group focuses on cross-cultural communication in business scenes related with tourism. Here you will find a clue to blend in the international workplaces in a truly professional way.

プロフィール：

上智大学外国語学部英語学科卒業後、IT企業勤務を経て、英語通訳案内士の国家資格取得。以降、観光・企業通訳、大学や地方自治体等の講演（ツーリズム、異文化コミュニケーション、実務英語等）を行う。

英語で学ぶ国際キャリア「国際実務英語Ⅰ」

※英語初級・中級程度

「国際分野の仕事で活用できる英語能力を
身につけながら、キャリアパスを考える」
(アクションプランづくり)

全体講義

意見を述べたり、討論に役立つ実践的な英語表現を学び、演習する。また、効果的なプレゼンテーション方法についても学習し、最終日の分科会発表で実践しよう。

英語で学ぶ国際キャリア「国際実務英語Ⅱ」

※英語中級程度かそれ以上

「専門知識と問題解決能力を英語で学び、
またキャリアパスを考える」
(社会への提言づくり)

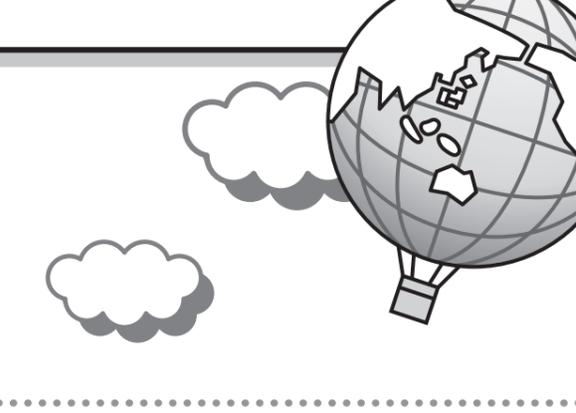
全体講義

私達は、日々の生活の中で自分なりの方法で問題分析や解決をしている。ここでは改めて問題分析・解決の考え方や方法を学び、思考力をアップさせることにより、効果的な問題解決を目指す。まずは分科会での課題解決に応用してみよう。

スケジュール

※開講式、交流会、閉講式はⅠ・Ⅱ合同で行います

- 1日目：白鷗大学にて開講式、全体講義、各講師の講義、貸切バスで昭和ふるさと村へ移動、交流会
- 2日目：分科会、中間発表
- 3日目：全体発表、総括と意見交換、閉講式



Tosha Maggy トシャ・マギー

NPO法人テラ・ルネッサンス コンゴ事業担当

International aid：Support for reintegrating victims of conflict

国際援助～紛争被害者の社会復帰支援

分科会内容：
難民や紛争被害者になるとはどういうことか。本分科会では、ウガンダ北部の元少年兵を例に挙げ、紛争被害者の立場を議論し、どのように紛争被害者の社会復帰を支援したら良いのかを探る。

What is like to be a refugee or a victim of any conflict? The working group will discuss the victims' thoughts and seek how to assist for their social integration using the example of ex-child soldiers in Northern Uganda.

プロフィール：

母国ブルンジで起こった虐殺のため、7歳の時難民としてコンゴ、タンザニア、ケニアと渡り歩き、13歳の時にウガンダへ。独学で必要な知識を身に付け、コンピューター会社へ就職。2005年よりNPOテラ・ルネッサンスのウガンダ事務所で支援活動に従事。

国際実務英語Ⅰ

Hari Srinivas ハリ・スリニバス

関西学院大学大学院 総合政策研究科 教授

Leadership skills to handle the environmental challenge

環境課題に取り組むリーダーシップを身につけよう

分科会内容：
環境は、様々な立場の人々にとって、大変重要な観点となっている。人間の生活様式のあり方が身近な地域、ひいては世界の環境にどのような影響を与えるのか、より深く理解することが求められる。シミュレーションゲームを体験して、環境問題に対応するリーダーシップスキルを学ぼう。

The environment is becoming a very important aspect for many different stakeholders. We have to develop a better understanding of the impacts of human lifestyle decisions on the local and global environments. We will explore new types of leadership skills to address environmental problems through the simulation game.

プロフィール：

東京工業大学博士課程（社会工学）修了。国際連合大学本部にてプログラムアソシエイトとして8年、国連環境計画（大阪）にてプログラムオフィサーとして10年間従事。



国際実務英語Ⅱ

Kenji Stefan Suzuki ケンジ・ステファン・スズキ

「風のがっこう」代表

Clean energy policy - Learning from Denmark, environmentally-advanced country

環境先進国デンマークに学ぶ クリーンエネルギー政策

分科会内容：
デンマークは、エネルギー自給率が国内資源により100%を超えたEU唯一の国である。本分科会では、環境とエネルギー政策、特にクリーンエネルギー政策について、デンマークを事例に考える。その上で、日本での代替エネルギー活用について行動計画を提案する。

Denmark is the only county in EU to have achieved more than 100% self-sufficiency of energy by domestic resources. The working group will look at the environment and energy policy, especially what is the clean energy policy by using the case of Denmark. Based on this, we will make an suggestion on the alternative energy in Japan.

プロフィール：

デンマーク・中部ユトランド商科大学卒。アライタリア航空、在デンマーク日本大使館を経て、1991年にデンマークの風力発電やバイオガスの対日輸出業務を行うS R A社設立。1997年再生可能エネルギー普及のための「風のがっこう」設立。

Jeffery C. Miller ジェフリー・C.・ミラー

白鷗大学 教育学部 教授、国際交流センター長

Differences in Japanese and Western business culture

日本と欧米のビジネス文化の違い

分科会内容：
現在の日本と欧米のビジネス文化について、例をあげ比較し分析する。そして即興で行う議論を通して、日本と欧米それぞれのビジネス文化の様々な利点について学生が探っていく。国際ビジネスの実務を振り返りながら、英語でアクティブに発言しよう。

With examples, current Japanese and Western business culture will be compared and analyzed. Then, through impromptu discussions, students will explore the various benefits of each. In addition to reviewing international business practices, each student will actively speak inEnglish VERY MUCH!

プロフィール：

上智大学大学院外国語学研究科修了。専門は比較文化研究および社会学。文部科学省の英語教員養成員を国内および栃木県内で務め、東京大学大学院で英語教師、大和証券・国際ビジネスアドバイザーなどに従事。現在、教科書検定審議会委員、英検1級審査員、早稲田大学非常勤講師も務める。

Bernard Timothy Appau ベルナルド・ティモシー・アバウ

学校法人アジア学院 講師、宣教師

Reviewing our life through food and agriculture

食と農業から私たちの暮らしを考える

分科会内容：
農業と食糧の安全保障は生活、経済、政治的安定の基盤となる。本分科会では、現在の農業と食糧安全保障を貧困、食糧援助、コミュニティ開発、グローバルゼーション等と関連づけて考える。そして食糧安全保障とは何か、東日本大震災の影響をふまえて議論する。

Agriculture and food security make the backbone of life, economy and political stability. The working group looks at the current situation of agriculture and food security in relation to poverty, food aid, community development, globalization etc.. We will discuss what is food security including the influence of the 3.11 earthquake.

プロフィール：

学校法人アジア学院及びフィリピンで農業を学ぶ。母国ガーナでは難民への食糧援助やマラリア対策として蚊帳の配布活動を行うなど開発プロジェクトに従事。現在、有機農業やコミュニティ開発について世界各国の研修生に教えている。



国際実務英語Ⅱ

Masako Yonekawa 米川 正子

宇都宮大学 国際学部 特任准教授

Development and human rights

開発と人権

分科会内容：
1960年代以降、途上国開発は国際社会にとって重要なアジェンダであったが、どれだけの進展があったのか。本分科会では、開発を評価し、人権保障と連結することにより効果的で持続的な開発にする方法を探る。

Since the 1960s, the development has been an important agenda for the international community, but has there been any progress? The working group will evaluate the development and seek how to make it more effective and sustainable by linking with human rights aspect.

プロフィール：

南アフリカ・ケープタウン大学院で国際関係修士号取得。UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）職員として、ルワンダ、ケニア、コンゴ民主共和国、ジュネーブ本部に勤務。JICA（国際協力機構）客員専門員を兼務。著者に『世界最悪の紛争「コンゴ」』など

Roland Adjov ローランド・アジョヴィ

アルカティア大学（タンザニア分校）教授

Conflict resolution in Africa and international justice

アフリカの紛争解決と国際司法

分科会内容：
国際刑事司法に依存するアフリカの紛争解決の現在の傾向を取り上げ、その成功と失敗について議論する。主に1994年のルワンダ虐殺と国際刑事裁判所が現在直面するコンゴやウガンダ等の現状に焦点をあてる。

The working group will look at the current trend of relying on international criminal justice for the conflict resolution in Africa, discussing its successes and failures. The main focus will be Rwandan Genocide in 1994 and the International Criminal Court's, current situations in the Democratic Republic of the Congo and Uganda etc

プロフィール：

弁護士 バリ大学大学院修士課程（政治学）修了。国際刑事裁判、ルワンダ国際戦犯法廷、アフリカ連合関連の団体を含む、国際刑事裁判所や人権団体で勤務。アメリカやフランスでも教鞭をとる。